B-3 読書活動の推進例

(1) 読書の質や幅の広がりを目指した活動

① 授業の中での取り組み

年間指導計画の中に読書活動を組み入れ、授業の中で、図書を利用するように取り組んだ。1年国語では「とりのくちばし」の単元で図鑑作り、2年国語では「スイミー」の発展学習として読書紹介を行った。ほかにも、5年国語「言葉の研究レポート」での言葉調べ、6年総合の「野鳥調べ」など、さまざまな取り組みが行われた。その結果、9分類をはじめ、4分類や8分類の本を読む児童が増えた。



2年 国語 読書紹介

② 読み聞かせ

ア 図書館司書による読み聞かせ

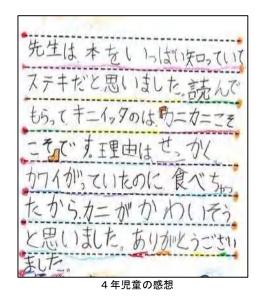
昼休みを利用して、図書館司書によるお話会を行った。低・中・高と、対象に合わせて内容を選び、本に親しむ機会を設けた。ブックトーク・アニマシオンなども学習活動の中に取り入れ、本との出会いの機会を多く持てるようにした。

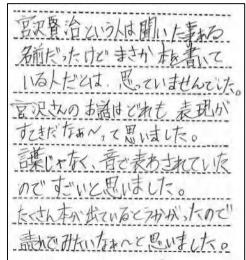
イ ボランティアグループ・外部講師による読み聞かせ

1・2年生を対象にボランティアグループの方に読み聞かせをしていただいた。児童は、指遊びや紙芝居もあり、興味を持って聞いていた。3・4年生は細川律子さんに民話の読み聞かせをしていただいた。5・6年生は宮沢賢治の作品を岩手訛りを交えた読み聞かせしていただいた。



ボランティアグループによる読み聞かせ





6年児童の感想

ウ 地域の図書ボランティアによる読み聞かせ

公民館便りを通じて、地域に図書ボランティアの呼びかけを行ったところ、4名の方に協力 をお願いすることができた。主に、昼休みの時間に読み聞かせや子どもたちのお話をきいても らう等の活動をしていただいた。

エ 児童による読み聞かせ

児童会活動の一環として、委員会ごとの縦割りグループで、上学年が下学年に紙芝居を読んだり本の読み聞かせをしたりする活動を行った。活動時間は、主に昼休みを利用した。



6年生による下学年への読み聞かせ

③ ブックボックス

朝読書の本が用意できなかった児童や図書館へ行っても自分で本が選べないという児童のために、教室内にブックボックスを設置した。本の入れ替えは月1回で、学級の図書係が本を選んだり、司書や教師がおすすめの本を入れたりして、いろいろな分類の本を読むことができるようにしている。



ブックボックス

④ 図書委員会の活動計画 (平成19年度)

月	活動内容	月	活動内容
4月	1年生へのオリエンテーション	11月	おすすめの本の紹介
5月	イラストコンクール	12月	多読者の表彰
6月	スタンプラリー	1月	スタンプラリー
7月	読書集会	2月	紙芝居・読み聞かせ
9月	新しい本の紹介	3月	年間多読者の表彰
10月	読書紹介		

スタンプラリー

読書の幅を広げるために、いろいろな分類の本を読んでいくスタンプラリーを行った。達成できた児童には委員会からのしおりが渡された。

読書集会

読書集会では、おすすめの本の紹介や、昔話のペープサート、本の〇×クイズなどを行った。



⑤ 図書だより

毎月一回図書館だよりを発行し、新しい本やおすすめの本の紹介、市立図書館で人気のある本の紹介などを行った。

(2)読書の習慣化を図る活動

① 朝読書

学級朝礼前の10分間を朝読書の時間とし、朝読書のきまりを掲示して習慣化を図った。本は前日、机の上に置いておくので、翌日は時間の開始と同時に読書を始めることができる。

また、机の横に本袋をかけておき、常時 $2\sim3$ 冊の本を入れておくことで、1冊読み終わってもすぐに新しい本を取り出せるようにしている。朝読書は『学習マンガ』や『図鑑』以外の本と決め、活字に親しめるようにした。

② 家族読書

家庭での読書を推進するために、家族読書の取り組みを行った。本の読み方は、「お話を読み聞かせする・同じ本を一緒に読む・おうちの人のお薦めの本を読む」など、学年やそれぞれの家庭の都合に合わせ自由な形で取り組めるようにした。

